大學婦人協會々報

東京都澁谷区千駄谷一ノ五六二
津田英語会(構内)
大学婦人協会
編輯発行人　杉森美代子
発行日　昭和30年10月25日
(第二〇号)

大学婦人協会の目的
本協会は女子の大学卒業者を結合し、女子教育の向上に寄与し、以て社会生活改善を計り併せて国際大学婦人連盟と協力して国際理解と親善に盡すことを目的とする。

事業
本会は左の事業を行う
1、女子の大学教育推進並びに研究助成のため奨学金に関する事業
2、その他本会の目的達成のため必要なる事業

會員の皆様へ

会長　山崎文子

敗戦後十年の時は流れて目に見える私共の周囲は立ち直つて来たかのように見えますが、戦によつて愛する親を夫を愛人をまた息子を失われた方々は、償うことのできない傷手をなお深めていられることと思います。この戦争が残したあらゆる不幸とその現した人間の醜悪さは、戦争とはどういうものかを充分に教えましたのにこの十年の歩みは必ずしも私達に安心を与えませんでした。今夏スイスで開かれた国際本部主催各国協会参加のセミナールでは「世界の轉換期にある大学婦人」と云う題の下に研究なさいました。未來の歴史を人類の幸福繁栄のためまた自滅のために転ずるかは、現代に生きるわれわれに負わされたきびしい運命であります。人類が破滅の道へと進む流れに逆つて敢然と起たなかつたと思うほど良心に対してみじめなことはありません。会員の皆様、大学婦人としての使命を反省して、心を一つに人類の幸福平和の目的に突進して行こうではありませんか。野見山前会長のときにおかれた適切な方針に従つて着実な歩みを進めて行き度いと思います。

本部は委員長会員に立派な適任者を得て発足しましたことをおよろこび下さい云うまでもなく、本部は支部あつての本部でありまして、支部の支持によつてのみ立つものであります。今様に支部はまた会員各自に支えられております国際本部が、各國の協会のために奉仕していられるのにならつて、本部は各支部の中心にあつて支部の連絡機関として奉仕したい心構えでおります。此の春の比国戦争未亡人招致は会員の御援助によりまして、国際親善の上に大きな足跡を残しました。それが大事業であつたために本部の歩みが多少おくれた嫌いもなくはありませんでした。

七月九日には東京支部と一緒に今年度留学生の壮行お茶の会を開き、あとフルブライト法について西村フルブライト事務局長から委しい御説明を頂きました。

七月廿三日から廿五日まで軽井沢のYWCA山荘に長野支部東京支部の会員を迎えて山の生活を御一緒にしました。又九月四日には長野支部の御招きで戸倉温泉笹屋ホテルで懇親会を御開き下され、軽井沢から井上副会長伊吹基準委員長と私がうかがい朝十時半頃から午后四時半頃汽車の発車時刻まで、一刻も惜く御話し合いをして楽しい有益な会合でした。

夏まえからアメリカ婦人達から困窮児童の救済に協力してくれるかとの申し入れがあり、感謝してこれに応じました。神崎委員長は暑い夏を通じて調査を進められ、まづ長崎県下の北松、佐世保地方に重点をおくことに定め、長崎支部の協力を得て一緒に仂くこととなりました。長崎の次には東京水上生活者として東京支部の協力を願うこととなりましょう。この仕事の続く限り困窮児童を多く抱く各支部の協力をつぎつぎとお願い申します。

七月一日は前副会長村井孝子様の関係される「学生奉仕団」の総会がヘルシンキで催されるとのことで、その帰途スイスで開かれる国際本部役員会と各国協会代表のセミナールに出席されるよう御願いして本部から巡遣と云うことが急に定りました。この決定から空路御出発まで丸四日間の短い日で、御当人はもとより、資金の方針、報告書類万端をととのえるために、高野委員長の御奮斗には頭の下る思いがいたしました。

婦人地位向上部は寶春禁止法案の問題と取組んで、他の婦人団体と歩調を合せながら、当協会独自の案を練つてをられます。東京支部は九月に神近市子様の感銘深い講演会を開いて下さいました。各支部もよき法律の生れますよう一層の御盡力をねがいます。

七月から八月にかけて国際本部からと、例年の通りAAUWから奨学生募集の申込みが届きました。生憎会報発行の時日とずれましたので別刷で御手許にお報らせ申しました。AAUWは毎年文化交流のために三名ほどの会員を一年間全費受持つて留学の世話をして下さいます。国際本部は十二三類の研究奨学生を募り、世界の何處の大学でも研究室でものぞむところでの研究を一年間保障して下さいます。

これは会員の純粋な学問研究を進めることを主眼とするもので、深い知識と真理の探究によつてのみ正しい判断を下す個性を育成することができると云う主張をもつ本会の本質とその目的とをうかがい知ることができます。それについてもいつの日にJAUWの奨学生を迎えることができるでしょうか。立派な候補者を國外に送り度くその銓衡方法等に委員長は心をくだいて居ります。全様に国内奨学生にも学識人格共にすぐれた方を御推せん下さるよう期待しております。

國外からの訪問客もしげくなりました。春には五六人マニラから帰りの方が来られ八月には一人、十月にはAAUWの元委員の人、フィリッピンの歯医者さん、英國の学者夫妻が来られます。お互に尚横浜に入港しているノート冊五箱をもらう事になつた箱も同方面に贈られる予定になつている。

今後もこれは継続事業となるであろうから、各支部にも働きかけてJAUWとしても、困窮児童救援事業を発展させたい。

さて、学校教育委員会前半期の事業として、困窮児童救援事業がとりあげられたが、もしこの事業が将来も組織的に、合理的に正確な基礎調査にもとづいてなされるならば誠に意義ある道をひらいたといわなければならぬ。さいわい全国に支部をもち、各地域の頭脳的役割を持つておられる方々をかかえている当協会としては、その意義と熱情さえ持つていただくならば、この愛の運動が全国に拡がるにちがいない。具体案について会報紙上で御報告できないのは誠に残念であるが、それぞれの支部の事情に応じて、このことをとりあげられ、且つよい智恵があつたらかしていただきたい。本部としては米国の婦人たちの好意を百%うけるように盡力し、東京支部の助力を得て具体的に実行してゆきたいと思う。

米国の婦人たちの申し入れに対して、まず長崎の炭鉱地を選んだことは、当を得た處置であつて、沢山の資料をみているうちに、自分の認識の浅かつたことを痛感すると共に、米国の婦人たちに長崎県の中小炭鉱地の惨状を深く深く理解してもらうことが急務であると思つた。ともあれ好意ある救援の手を私共は感謝の心で受けるものである。女同志の愛と理解がどこまで発展できるか、会員の皆様の御協力を願つてやまない。

十月一日より一週間ムーア夫人と共に炭鑛地区を視察して帰られた山崎会長の報告によれば、長崎県北松、佐世保の炭鉱地困窮の様子は想像以上であつた由、又ムーア夫人の感動も深く、この事業の将来によい結果がもたらされるにちがいない。

終りに学校教育委員の方々の意見を主台にして仕事をおしすすめて行きたいが、今回十分御相談出来なかつたことは御容赦願いたい。

(委員、加藤すい、藤野隆子、一又民子、渡辺明子、氷上貞子阿部俊子)

学校教育委員會

委員長　神崎かおる

本年度事業計画としては、(1)前年度継続事業として、中央教育審議会に女性を二名以上加えてもらいたい。(2)全国高等学校における共学の実態調査。(3)教科書問題(4)文部省の計画になる学生寮に、女子学生の為のものを考慮する様にしてほしい。等の事があるが(4)の女子寮の問題については、女子大学生の実態調査、並びにその必要性の世論喚起が必要である事を認め、善處する事としている七月、会長より米國のレイモント夫人、ムーア夫人、メイヤー夫人達よりJAUWを通して、日本の困窮児童救援の志のある事が報告され、爾来、先方の意志、日本の実状を各方面の好意により調査検討交渉の結果、最初の救援地を炭鉱方面と決定した。かくて長崎県北松炭鉱及び佐世保炭鉱の学童にノート二一三〇冊、ギフトボックス五七六箱をもらう事になつた箱も同方面に贈られる予定になつている。

今後もこれは継続事業となるであろうから、各支部にも働きかけてJAUWとしても、困窮児童救援事業を発展させたい。

さて、学校教育委員会前半期の事業として、困窮児童救援事業がとりあげられたが、もしこの事業が将来も組織的に、合理的に正確な基礎調査にもとづいてなされるならば誠に意義ある道をひらいたといわなければならぬ。さいわい全国に支部をもち、各地域の頭脳的役割を持つておられる方々をかかえている当協会としては、その意義と熱情さえ持つていただくならば、この愛の運動が全国に拡がるにちがいない。具体案について会報紙上で御報告できないのは誠に残念であるが、それぞれの支部の事情に応じて、このことをとりあげられ、且つよい智恵があつたらかしていただきたい。本部としては米国の婦人たちの好意を百%うけるように盡力し、東京支部の助力を得て具体的に実行してゆきたいと思う。

米国の婦人たちの申し入れに対して、まず長崎の炭鉱地を選んだことは、当を得た處置であつて、沢山の資料をみているうちに、自分の認識の浅かつたことを痛感すると共に、米国の婦人たちに長崎県の中小炭鉱地の惨状を深く深く理解してもらうことが急務であると思つた。ともあれ好意ある救援の手を私共は感謝の心で受けるものである。女同志の愛と理解がどこまで発展できるか、会員の皆様の御協力を願つてやまない。

十月一日より一週間ムーア夫人と共に炭鑛地区を視察して帰られた山崎会長の報告によれば、長崎県北松、佐世保の炭鉱地困窮の様子は想像以上であつた由、又ムーア夫人の感動も深く、この事業の将来によい結果がもたらされるにちがいない。

終りに学校教育委員の方々の意見を主台にして仕事をおしすすめて行きたいが、今回十分御相談出来なかつたことは御容赦願いたい。

(委員、加藤すい、藤野隆子、一又民子、渡辺明子、氷上貞子阿部俊子)

基準委員會

委員長　伊吹知勢

委員は今一人銓衡中でございます。基準の問題は新しい学制がしかれて十年になろうとしている今再検討をされねばならぬ問題ですそれで委員の方は特に氣をつけて各方面を代表する方に出ていただきました。慎重協議し新しい基準として皆様に御納得のゆく線をうち出したいと考えております実際に直面されました問題がおありなら、どうぞどしどし御申越いただきたく、基準委員会への皆様の御協力をお願いいたす次第です。

(委員、大原恭子、天達文子、近藤いね子、竹内和子)

会員委員会

委員長　馬越宮

病氣を致しまして委員会もまだ一度も開いていませんが、本年度計画としては何をおいても会員の一大増加運動を展開いたし度いのですが、その為には

一、大幅に加入大学を増加して飛躍的な会員増加をはかること

二、青年会員の獲得の方法を考えその事に努力する。

三、会員の細胞組織を明確に把握し、系統的に増加をはかること。

幸に委員として有力な左の方々を迎えましたので、早速委員会を開き豊富な御意見を伺つて推進したいと思います。

(委員、村井孝子、酒井淳子、中村ヨシ、坂本春枝)

奨学才一部委員會

委員長　辻きよ

奨学才一部委員会は、優秀な研究員、学生のために奨学金を授与すべく準備を進めて居ります。

各支部に書類を御送りいたし、十月末日迄に、候補者をまとめて出して頂きますよう御願いいたしました。

授賞式は來年の一月十五日にいたす予定であります。

(委員、上田柳子、酒井淳子、原きみ子、馬越宮、中田はる、鷲馬丁未子)

企画部委員會

委員長　增田勢以子

奨学金を集めますため本年度才一回の催物として、十月二十三日一時半より四時半迄品川のプリンスホテル(元竹田宮邸)に於て、ガーデンパアテイをいたします。余興には茶席、香道実演、その他ダンスと音楽がございますなお次々催物を計画中でございますからどうぞよろしくお願い致します。

(委員、藤田澄子、服部広子、桃井タミエ、関栄子)

長野支部會に招かれて

去る九月四日、長野支部会よりのお招きを受けて、折柄軽井沢方面に滞在中の山崎会長、伊吹基準委員長、井上の三人で、会場戸倉温泉にまいりました。出席者十四人の会員の御歓待の中に、十二時頃閉会、岡本支部長の歓迎の御挨拶は心から有難く、次に自己紹介なとののち別室で懇談会。山崎会長のフィリピン会議での経験談を聞きたいとの御希望で、彼地の生活事情や殊に婦人の立場等につき興味ある話があり、一同はそこに見出される諸種の問題について自由に意見の交換をしました。その他支部よりの発言では、奨学資金を集めるのに催物等の選択に困るという話や、地方に居ると大学婦人の立場は一層注目を浴びるだけなかなか重要であるとのこと、及びそれに處する真剣な意慾等が聞かれ、有意義な会でした。今も私の中に残つているものは、御出席の御一人御一人が皆立派な方で、各自の御環境において使命感に生き生きと暮しておいでの姿、しかも各会員一致協力しておられる姿でした。これは岡本支部長の御誠意と、皆様の熱意とが一つに合つている証でありましょう。益々相助けて御発展なさる様祈り上げます。終りに誌上を借りて、本部よりの三人を代表して、十四人の方々に厚く御礼申上げます。

(九・三〇　副会長井上秀子記)

AAUWグアム島支部長 ハーベイ夫人の訪日

夫人は去る八月二十二日、一週間の予定で來朝されました。生憎会長お留守の為、私が代つて御案内しましたが、真夏の日本もグアム島に比べると涼風の国らしく、殊に日光の一日を激賞されました。夫君は心理学の教授、夫人は教育学専攻。なおグアム島の図書館では日本の学術書が沢山使用され、重要視されているそうです。日本の皆様によろしくとの傳言を残されました。

(鈴木布美記)

一九五五年度 本部役員

会長	山崎文子
副会長	馬越宮
〃	井上秀子
書記	田辺幸子
会計	高橋静枝
〃	関根初枝
〃	原雅子
企画	増田勢以子
大学基準	伊吹知勢
財務	加藤照子
報道	杉森美代子
国際	高野フミ
奨学才一部	辻きよ
奨学才二部	岡武喜美子
会員	馬越宮
学校教育	神崎かおる
婦人地位	松本喜美子

支部所在地並に支郷長

(一九五五年七月卅一日現在)

東京	大田区山王一ノ二八五〇 大島清子
函館	函館市五稜郭町五五 吉村花子
仙台	仙台市北五番町一五 大脇静枝
宇都宮	宇都宮市作新学院内 船田小常
新潟	新潟市学校町二 林恵美子
岐阜	長良市桃林岐阜女子短大 堀口俊子
奈良	奈良市北魚屋西町奈良女大 川井志づ
水戸	水戸市西原町自由ケ丘 高木亀久栄
静岡	静岡市西千代田一九五 齊藤淑子
名古屋	名古屋市昭和区荒田町一ノ二六 臼杵知余子
大阪	大阪市生野区南生野五 北田慰子
尼崎	尼崎市塚口住宅地松町一 前田維久江
福岡	福岡市箱崎宮小路 君島実生
神戸	神戸市生野区南生野五 藤田美枝
大分	大分市大分大学々芸学部 飛松多恵子
熊本	熊本市井川淵三九 本田ミツ
京都	京都市伏見区深草宝塔寺山町三二 野中さかえ
福岡	前橋市榎町銀南通り 高柳文女
埼玉	熊谷市石原一ノ三六
愛媛	松山市道町愛媛大教育学部長野知加恵
神奈川	横浜市中区山手町四二 池田やま
長野	長野市西長野町黒沢沿一方 岡本いさを
札幌	札幌市北九條西十八丁目 鶴田美代
秋田	秋田市保戸野中町 長谷山包子
広島	広島市東雲町広島大東雲分校 鎌本温美
小樽	小樽市汐見台一四 渡辺節子
長崎	長崎県南高來郡神代村 中島年代
松本	松本市堂町五一七 山田いさ江
高知	高知市通町二ノ二一四 村上郁
福井	福井市江戸上町二〇井上操方 羽根明子

I·F·U·W の會議より帰りて

村井孝子

此の夏、八月六日から十日迄、三六回世界大学婦人連盟（IFUW）の評議員会、及び引続き二一日迄、同研究会がスイスで開かれた。日本大学婦人協会は、韓国と共に昨秋加盟したばかりで初の参加をしたわけである。

七月二一日から十日間、ヘルシンキであつた世界大学奉仕団（WUS）の総会に出席して、そのあと、ストックホルム、コペンハーゲン、倫敦をまわつて、夏の旅行者の群をかきわけて、八月六日の深夜二時間半の飛行機で、ジュネーヴに着陸。そこから汽車、電車ケーブルにのつて会場のグルテンホテルに辿り着くまでに矢張り二時間半かかつた。グルテンは、ベルンの街を見下し、アルプスの連山を見渡す丘の上にある。このように美しいところで会を開くことができたのは、スイス大学婦人協会の会長ヘンリッチ夫人、会計のシュナイダー女史、バーゼル支部長のケラー女史等の御骨折の結果であつた。このホテルに泊れない人達は、下の町から毎日ケーブルで通つた。此の会では諸種の報告提案、会則改正、新しいことでは直ぐ後にくるセミナーや、来春、南米で開くはずの地域別会議等の承認など、二九の項目を検討していくのだが、此の冬、日本を訪ねてこられた会長リート女史は、いつも黒い服を召されて、和やかに実に公平に、てきぱきと議事をすすめていかれた。

細則により、初参加の日本は抽籤できめられた他の十数ケ国と共に、三分間報告をした。日本の会員数は、世界で四、五番目で、その支部の数の多いことは、フィリッピン未亡人招待のプログラム作成、研究費の支給等に関することが他の国々から報告され、それらは興味深いものであるが、紙数がないので、別の折に紹介したい。特に感心したのは、D·P·（レフュジー）救済に、米·英·伊·オーストラリア·ニューズィランド·ルクセンバーグ·ベルギー·カナダ·オーストリー·スイス·南阿にいたるまでの国々が力を注いでいることである。学費、衣料費、子供や病人の世話、仕事の紹介、移民等にいたるまで物心両面の世話が、東部の委員長ヘッグ夫人を中心として行われている。殊に、オランダは、最近三ケ月の間に、四、一七八ドルという多額の寄附をしているし。D·P·のヴィザの問題にもベルギーなどと共に盡力している。印度やギリシヤもそれぞれ国内でD·P·のために骨折つている由、色々の問題がおりこまれて難しい仕事であるだけに、委員の労苦をお察しした。

↑ジュネーヴにて（米）ロワブ女史（比）ベニテさん（印）ルストムジー女史（比）会長

→ンステて（米）孝子ドンガにロ井ーアア村日ラク六月ト八

が、スイス大学婦人協会の国際委員長が、IFUWの役員を構成するのであつて毎年開かれる役員会に出席する義務があるわけですが、今年の夏、スイスで開かれた役員会には、幸い、前副会長の村井孝子氏が、他の会議のためにヘルシンキへ行かれた帰途代つて出席されたので、加盟後最初の役員会に出席する費用を（一部はIFUWから支給されますが）どうして作つていくかという問題が起つてきます。更に、来年はIFUWの総会がパリで開かれることになつて居りますが、三年に一度開かれるこの総会は、IFUWの指導的な役割をされる方も、私共の会員の中から出ることでしよう。恒久的な組織をもつて、世界の三十数ケ国の指導者層の婦人と手をつないでいるということ、しばしば唱えられる言葉ではありますが、人間の交流、文化の交流を通して、もつと住心地の良い世界を作るために、私共が直接に貢献できるということは、私共に大きい希望と勇気を与えます。

今後、IFUW関係のことは、会報、その他を通じてできるだけ各支部に御伝えしたいと思います。最初の役員会に出席されました村井孝子氏が、時間の許す限りどこの支部でもお話をしに行つて下さいますから、御希望の支部は御申越下さい。又、会員の方が外国へ出られる時には、その国の大学婦人協会へ、予め紹介と依頼の手紙を出すことになつて居りまして、その用紙も印刷いたしましたから、早い目に国際委員会へ御知らせ下さい。又、国際委員会に対して御希望や御意見がございましたらどうぞ御きかせ下さいませ。

委員　井上歌子、片山登代子、松宮薫、守屋百合子、中川輝子、中島嘉恵子、中村道子、鈴木布美

婦人地位向上委員會

委員長　松本喜美子

七月末、委員が決定し、委員会開催の結果、次の諸問題に重点をおき、仕事をする事にした。

一、婦人少年局等、官庁と連絡をとり、その資料、調査物等をなるべく早く支部へしらせ、支部の婦人地位向上に協力する。

二、時期的に問題がおこつた場合（たとえば、今年度の売春禁止法の上程のごとき）は、それをとりあげ、批判し、本部の役員会を経て、然るべく處置する。

三、別に、大学婦人協会としての立場から、婦人の地位向上を本会の根本的な趣旨、婦人の高等教育というものと結びつけて立案する。これは少し時期がかかるかもしれないが、又地味なものかもしれないがよく練つてよい仕事をしたいと思われる。

以上のような委員会の意見によつて、今回はこの第二の、時期的な問題として、さる国会に於て葬むられた、売春禁止法をとりあげてみた。

この件については、大学婦人協会のみならず、日本中の婦人の一人一人の問題であり、やがては婦人団体と異る、大学婦人協会の大きい特色の一つとなるので、私共の具体的な活動にも生かされてこなければならないのです。IFUW本部役員、委員の改選には、私共の会員の中からも候補者が出るので、やがてはIFUWの総会がパリで開かれることになつて居りますが、三年に一度開かれるこの総会は、すべての重要な事項を決議し、その先三年間のIFUW本部役員、委員を選出する重要な会議ですので、これにも誰か出席しなければならず、又、IFUWに加盟して居る他の大学婦人協会の会長が日本に来られる時には、できるだけお世話をする義務があります。日本の会員が外国へ出る場合にも、やはりどこの国でもそこの大学婦人協会が世話をして下さるわけで、これは相互的な義務です。

今までに参りました依頼状は、AUWから、二、三通ですが、これから多くなると思います。この方達が地方に御住みになる場合は、その地方の支部へこの依頼状を廻して居ります。又、一つの土地に長く滞在される場合には、希望されれば、大学婦人協会正会員として、私共の仲間に入つていただくことになります。

又、毎年一回、一年間の活動状況をIFUWに報告する義務があり、七月に本一回の報告書を送りました。報告すべき事項の中には今まで私共が余り力を入れていなかつたような面もありますが、IFUWに加盟した以上そういう面にも力を注ぐようにしていかなければならないと思います。例えば奨学金は大学生よりも、独立した研究に従事している人に重きを置いて居ります。それから、他国の大学婦人協会との交流ということが、重要事項の一つとなつて居ります。政治活動、社会事業、慈善事業の促進等、それぞれ別個の項目になつて居り、又、教育者、司書美術顧員等の交換というような項目もあります。

IFUW規約附則第一條に、各大学婦人協会の国際委員会の任務として、外国人のための奨学金の設立、自国内又は他国との間の教師、講演者の交換、他国大学婦人協会会員との交流、それを促進するための施設の設立運営、ということなどが規定されていて私共の現状から考えますと不可能に思われることも多いのですが、だんだんにこれらのことも実行できるように考えていかなければならないのです。

このように書いてきますと、IFUWに加盟したことは、負担を増すことになつたように考えられますがそしてたしかにいろいろの仕事がふえてきたのですが一負担のふえた半面には前にも申しました様に、日本の大学婦人協会の活動が、単に、日本一国内のものではなく、世界的な組織につながるものとしての重要性を持つようになつたのであり、この点は他の婦人団体と異る、大学婦人協会の大きい特色の一つとなるので、私共の具体的な活動にも生かされてこなければならないのです。IFUW本部役員、委員の改選には、私共の会員の中からも候補者が出るので、やがてはIFUWの総会がパリで開かれることになつて居りますが、三年に一度開かれるこの総会は、IFUWの指導的な役割をされる方も、私共の会員の中から出ることでしよう。恒久的な組織をもつて、世界の三十数ケ国の指導者層の婦人と手をつないでいるということ、しばしば唱えられる言葉ではありますが、人間の交流、文化の交流を通して、もつと住心地の良い世界を作るために、私共が直接に貢献できるということは、私共に大きい希望と勇気を与えます。

今後、IFUW関係のことは、会報、その他を通じてできるだけ各支部に御伝えしたいと思います。最初の役員会に出席されました村井孝子氏が、時間の許す限りどこの支部でもお話をしに行つて下さいますから、御希望の支部は御申越下さいませ。又、会員の方が外国へ出られる時には、その国の大学婦人協会へ、予め紹介と依頼の手紙を出すことになつて居りまして、その用紙も印刷いたしましたから、早い目に国際委員会へ御知らせ下さい。又、国際委員会に対して御希望や御意見がございましたらどうぞ御きかせ下さいませ。

委員　井上歌子、片山登代子、松宮薫、守屋百合子、中川輝子、中島嘉恵子、中村道子、鈴木布美

国際委員會

委員長　高野フミ

昨年度役員の方々の御骨折りにより、万国大学婦人協会連盟（IFUW）に加盟できたことは、私共の大学婦人協会にとつて一大飛躍でした、この飛躍によつてJAUWの存在価値が倍加したと同時に、種々の權利と義務が生じました。オ一には、会員は誰でも、前号で発表いたしましたIFUWの奨学金を申込むことができるようになり、又、アメリカ大学婦人協会の奨学金は、今まで特別の好意で、加盟していない私共も毎年いただいていたのですが、今年からは、世界各国の大学婦人協会と同等の立場で申込むことになりました。英国やスエーデンからも同様な奨学金の申出があります。これ等は、すべて、自費で海外に学ぶことのできない私共に与えられている、恵まれた機会です。

IFUWに加盟して居る各大学婦人協会の国際委員長が、IFUWの役員を構成するのであつて毎年開かれる役員会に出席する義務があるわけですが、今年の夏、スイスで開かれた役員会には、幸い、前副会長の村井孝子氏が、他の会議のためにヘルシンキへ行かれた帰途代つて出席されたので、加盟後最初の役員会に出席する費用を（一部はIFUWから支給されますが）どうして作つていくかという問題が起つてきます。更に、来年はIFUWの総会がパリで開かれることになつて居りますが、三年に一度開かれるこの総会は、IFUWの指導的な役割をされる方も、私共の会員の中から出ることでしよう。恒久的な組織をもつて、世界の三十数ケ国の指導者層の婦人と手をつないでいるということ、しばしば唱えられる言葉ではありますが、人間の交流、文化の交流を通して、もつと住心地の良い世界を作るために、私共が直接に貢献できるということは、私共に大きい希望と勇気を与えます。

今後、IFUW関係のことは、会報、その他を通じてできるだけ各支部に御伝えしたいと思います。最初の役員会に出席されました村井孝子氏が、時間の許す限りどこの支部でもお話をしに行つて下さいますから、御希望の支部は御申越下さいませ。又、会員の方が外国へ出られる時には、その国の大学婦人協会へ、予め紹介と依頼の手紙を出すことになつて居りまして、その用紙も印刷いたしましたから、早い目に国際委員会へ御知らせ下さい。又、国際委員会に対して御希望や御意見がございましたらどうぞ御きかせ下さいませ。

委員　井上歌子、片山登代子、松宮薫、守屋百合子、中川輝子、中島嘉恵子、中村道子、鈴木布美

東京支部だより

▲九月十日午後一時半より参議院会館に於て、神近市子氏の「最近の政治と婦人問題」についての講演会があつた。賣春禁止法案が国会を通過しなかつたその間の事情について御説明があり、今後恐らく永久に通過しないのではないか又、立法化されるとすれば、骨ぬきの法案（例えば、業者に不利益でないような）となるのではないか等の話しも出て仲々活潑な会であつた。

結論として今後は、全国の婦人殊に婦人團体の強力な御支援の下に進めて行かなければ立法化は不可能ではないか、どうぞ御協力をとの事で午後四時散会した。

▲過日奨学金獲得の為俳優座に於て「幽霊」の總見を致しました際は皆様の御親切な御協力によりまして、御陰様で大成功で感謝致して居ります。

尚、三十年度国内奨学金の資金獲得の為の企劃報告第一回六月二十八日　新橋演舞場、吉右エ門劇團公演、純益、壹万九千九百五拾円也

第二回　九月二十二日　俳優座劇場にて、イプセン作「幽霊」の總見、純益四万四千壹百九拾円也。この間、七月には文楽の興行（之は御希望の方にて分ける）純益、壹千六百円也

合計金六万五千七百四〇円也

引続いて、三回、四回と催す計劃にて、次は十二月に新橋演舞場の新派公演を予定しています。

何卒その節は又よろしく御願い致します。

（報道委員、企画委員）

太郎、山崎始男、山田長司、山花秀雄、山本幸一、横錢重吉、横路節雄、横山利秋、和田博雄、渡辺惣蔵、井上良二、井堀繁雄、伊瀬幸太郎、伊藤卯四郎、池田禎治、稲富稜人、今澄勇、受田新吉、大西正道、大矢省三、春日一幸、片山哲、神田大作、川島金次、川俣清音、河上丈太郎、菊地養之輔、小牧次生、河野密、佐々木良作、佐竹新市、杉山元次郎、鈴木義男、田中幾三郎、田中利勝、田原春次、田万広文、竹谷源太郎、戸叶里子、堂森芳夫、中井徳次郎、中崎敏、中島巌、中村高一、中村時雄、西尾末広、西村栄一、西村彰一、日野吉夫、平岡忠次郎、平田ヒデ、前田栄之助、松尾トシ子、松岡駒吉、松前重義、三宅正一、三輪壽壮、水谷長三郎、門司亮、矢尾喜三郎、山口シヅエ、山下栄二、吉川兼光、吉田賢一、石野久男、久保田豊、小林信一、小山亮、志賀義雄、中原健次。

後記

本会も国際的にも又国内的にも、多方面に有意義な活動を示す様になり、会員の皆様の活動状況を詳しく報導したいのであるが、如何せん限られた紙面で、切角御寄稿下さつたのに、省略せざるを得ない事となり、真に執筆せられた方に申しわけなく思つている。然し更に各方面の活動が活潑になれば増頁の事も考えられるので、どしどし状況、御意見の御寄稿を願うものである。

報導部　杉森美代子
委員長　清宮和子
委員　〃
古田逸子